

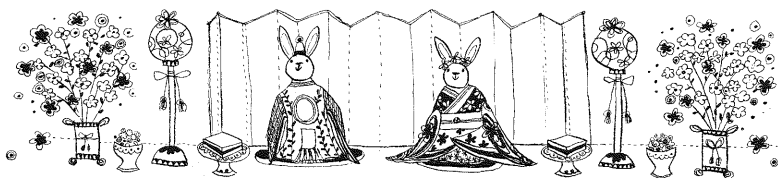
## 巻頭言

# 目に見えない成果を評価すること

米田 俊彦

私事で恐縮ですが、私は子ども二人を八年間にわたって保育所に預けてきました。まもなく下の子が小学校に入りますので、親子そろって卒園です。通わせている公設公営の保育所が建て替えを機に運営を民営化することになりました。ここ数年、民営化の意味や是非をめぐる保護者の間で、あるいは保護者と行政との間での議論にかかわってきました。保護者会の役員をやったり、公設民営化方針を策定するための市役所内の会議を毎月傍聴したり、保育士さんたちの自主的な学習サークルに顔を出させていただいたりもしました。これらの経験を通じて、公設民営化そのものに疑問をもつとともに、保育の仕事の困難さと重要性とが、いかに社会的に理解されていないかを痛感させられました。

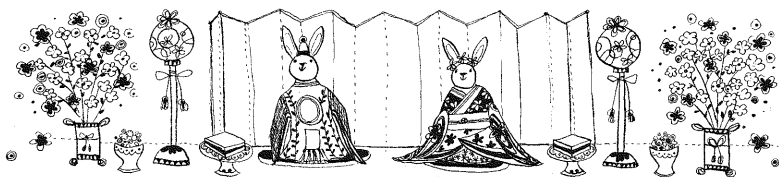
公設民営化は、突き詰めていうと、民営委託すれば人件費を大幅に削減できるとい



うところから出てきた方針です。そこには、人件費を削減しても保育の質が維持できるという前提があります。これには賛同できません。ある会議で、「長く仕事を続けられない賃金にしたら若い保育士ばかりになる。それでは先輩を見習うことも、あるいは先輩から指導されることもなくなり、若い保育士が成長できなくなるのではないか」という批判が出ました。それに対して、研修を充実させる、きちんとしたマニュアルを作れば大丈夫、といった耳を疑うような行政の説明も聞きました。

公営保育所に子どもを預けている保護者の多くは、たとえば字を読み書きできるようになる、泳げるようになる、歌が上手に歌えるようになる、といった具体的で目に見える成果を求めているわけではありません。毎日友達と過ごすなかで、からだや心が成長し、社会性を自然に身につけていってほしいと素朴に願っています。そして成長途上での困難やつまずきが生じた時に、適切に対処し、あるいは保護者にアドバイスをしてくれればありがたいと思っています。その子なりに自然に元気に育つことが体が難しくなっていますから、保育の仕事の責任も重要性も増していると思います。しかし、目に見えない成果を評価する目をもたない人たちには、そういう議論が通じないのです。

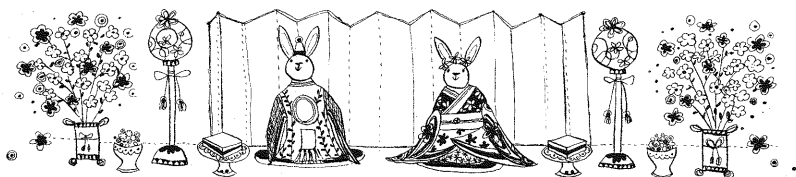
私は専門が教育史で、授業の中で、第一次世界大戦（一九一四〜一八年）の頃から



の新教育運動を扱う時に、必ず池袋児童の村小学校から発せられた次のメッセージを紹介することになっています。

今の教育上の制度組織は、だいたいにおいて資本主義に支配されている。教育を教育とせず、商業か工業のようにやっている。たとえば一人の教師が一時に一定の場所で、七十人八十人の児童を教えようというがごとく、なるべく最少の資本をもって最大の効果をおさめようというのである。教育が教育の原理に支配されず、経済の原理によって動かされているのである。その効果というようなことも、すぐ眼の前に表われてくるような結果をさすのであって、ちよつと眼にふれない結果―たとえば人間の感情がどれほど純美高雅となってきたかなどということとは計算の内には加えられない（『私立池袋児童の村小学校要覧』（教育の世紀社、一九二四年）の「七 『児童の村』の教育実況（その一）」より）。

詰込主義、画一主義への批判の文脈で語られていますから現代の状況とは違いますが、目に見えない成果を大切にすべきことがはっきりと語られています。この小学校では国の定めたさまざまな基準を無視する形で、クラスの人数を少なくしたり、「小鳥とり、沙干狩り、小川の漁り、喧嘩、せり合い、あらゆる自然と人事のできごと」



を「題材」とした、徹底した子どもの生活中心の教育を実践したりしていました。この文章が書かれてから八〇年以上が経過していますが、目に見えない成果を大切にす意識が高まっていると言いたいと思います。

目標を設定し、そこにどの程度到達したかを評価し、その結果に比例させて今後の資源の配分を決める仕組みが教育の世界にも広がっています。しかし、教育の世界には目に見える成果だけでなく、目に見えないけれども大切な成果もたくさんあるはずで、目に見える成果は評価しやすく、目に見えない成果は評価しにくいから評価しなくてもよいということになってしまったら、目に見える成果を出すことだけに意識を傾倒するようになります。しかしそれではまともな教育にはなりません。

幼稚園と保育所の一元化、一体化が進んでいます。そのこと自体の是非はともかく、保育の仕事、とりわけその目に見えない成果に対する社会的な理解が不十分なままに制度が大きく変わっていくと、それを契機として、成果主義の導入と財政支出の抑制が一段と進展するのではないかと懸念されます。社会全体が冷静さを取り戻し、保育や教育の仕事には目に見えない成果が多く存在すること、そして目に見えない成果こそが大切なことが広く理解される必要があります、そのことを強くアピールしなければならぬと思っています。

(お茶の水女子大学)